

ねりまの文化財

文化財講座抄録

石造物を訪ねて—中山道

庚申懇話会会長 小花波平六先生

(六月二七日に実施した文化財講座の内容を文化財係の責任で抄録したものです。)

中山道は、江戸の五街道のうちでも石造物の多い道である。もちろん、他の街道にも石造物がないわけではなく、かなりたくさん見られる街道もある。しかし、質・量ともにもすぐれた石造物が多く、変化があるのは中山道である。明日、皆さんは戸田市付近で中山道を歩き、石造物を見ることがあるので、この講義の目的である石造物の見方や楽しみ方を具体的にするため、石造物の調べ方について話をします。

石造物を調査する前に必要なのは、まず地図をよく調べるといふことである。実際に歩いてみる前に現在の地図と江戸時代の地図の双方をくらべておく必要が

ある。日本橋から中山道を調査する場合、江戸時代の地図としては『切絵図』が参考になる。ただし、これは江戸市街しか描かれていないので、板橋付近を調べる場合は、『中山道分間延絵図』を使用する。とにかく、調査地の地図はできるだけ多く集め、調査地に対する情報を豊富にしておく必要がある。

また、調査はただ見て歩くということではなく、石造物については写真を撮りカードを作ることである。石造物を訪ねて写真を写してみても、後でこの写真なのかかわからないというのでは調査にならない。カードを作ったつぎは同じ系列の石造物を集めてみる。墓石なら墓石

委員会 課
教育係
文化財係
3993-1111 内線7141
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

地蔵なら地蔵、庚申塔なら庚申塔というようにカードを集め、石造物の種類ごとに分類してみるのである。

たとえば、中山道を日本橋から板橋まで歩くと、いくつかの古い墓石に行き当たる。湯島の麟祥院には春日局の墓、文京区白山の円乗寺には八百屋お七の墓、板橋駅東口には近藤勇の墓碑、板橋平尾宿の東光寺には宇喜多秀家の墓碑、板橋中宿の文殊院には遊女の墓や加賀前田家の女中のお針の師匠

で若くして亡くなった薄幸の娘お静の墓がある。これらをカードにとって比較すると、春日局が出世頭であることがわかるのである。こうして墓だけ並べてみるも、一つの物語ができるが、そういう筋道を通すのが学問である。

また中山道にはたくさんさんの庚申塔があり、庚申講がさかんだったことがうかがわれる。江戸の地誌である『江戸名所図絵』にも庚申塔の絵が出てくる。話はそれるが『江戸名所図絵』に「石神井明神祠」の挿絵があり、これに江戸時代の練馬の庚申塔が描かれている。このような絵を見て、その庚申塔が今どこにあるか調べてみることも重要であろう。

さて、話を中山道に戻そう。板橋の旧宿場には、東光寺と観明寺がある。この二寺にはすばらしい庚申塔がある。青面金剛の庚申様で、二童子や猿と鶏の彫刻がついた、寛文元年(一六六一)と寛文二年のものである。

中山道を歩くと、この他にもたくさん庚申塔があり、「庚申」と漢字で書かれただけのものや三猿だけ刻んだもの、青面金剛像を刻んだものなどがある。このように庚申塔なら庚申塔というように同系列ものを分類し、場所ごとに整理し、さらに年代の古いものから順に並べると、その石造物の形がどのような変遷をとげてきたかが分かるのである。

本日は石造物の調べ方についていろいろと話をさせていただいた。明日、皆さんは戸田市・蔵市を歩き、石造物の見学をされるということであるが、自分なりの石造物の旅を記録されることを願い、本日の話の結びとしたい。



